

# 米子水鳥公園

## レンジャー通信

水鳥公園の指導員(レンジャー)によるさまざまな活動をご紹介します。

米子水鳥公園 (☎24-6139、FAX24-6140)



### 水鳥公園で自由研究をしよう!

米子水鳥公園は、水鳥をはじめとする水辺の生き物の自由研究に取り組むのに最適な施設です。

ネイチャーセンターには生き物に関するさまざまな本がありますし、専門知識がある指導員もいます。例えば、自分が採集したり写真を撮ったりした生き物の種類調べや、どのように研究をまとめたらよいかのアドバイスを、指導員から受けることができます。

また、水鳥公園では、皆さんの自由研究のヒントになる自然観察企画を、毎年夏休み中に開催しているので、それらに参加していただくのもおすすめです。



標本箱づくり

です。ただし、今年は新型コロナウイルスへの対策のため、例年よりも定員を少なくしています。そのため、イベントに参加したいのに参加できない方が多くいらっしゃると思います。もしイベントに参加できなくても、水鳥公



昆虫のライトトラップの実演

園の生き物を観察したり、本で生き物のことを調べたり、指導員に質問や相談をすることができます。

ぜひ、小学生の皆さんには、自分が好きな生き物をテーマにして自由研究に取り組んでほしいと思います。私たち指導員は、皆さんの生き物に関する自由研究を、全力で応援させていただきます。

米子水鳥公園専任指導員 桐原 佳介

## 美術館通信

特別企画展 生誕110年記念「異才 辻晋堂の陶彫」より

### 辻 晋堂《カラカサのオバケ》

境港市の水木しげるロードには、一本足に下駄ばき、舌を出した《傘化け》というブロンズ像があります。古い唐傘に宿る精霊をキャラクター化したものですが、おそらく多くの方が傘のお化けと聞いて想像するのはそちらでしょう。

いっぽう、伯耆町出身の彫刻家・辻晋堂による陶彫(陶土による彫刻)《カラカサのオバケ》は、寸胴な体におちょぼ口、帽子を被り、16本の短い足が付いています。このお化けはどうやって歩くのか…。当館で開催中の「異才 辻晋堂の陶彫」で、ぜひ想像しながらご覧ください。本展では、国際展に出品された大型の陶彫のほか、辻が自ら「粘土細工」と呼んだユーモア溢れる作品など約80点を紹介しています。

米子市美術館

(☎34-2424、FAX33-0679)



辻 晋堂《カラカサのオバケ》  
1974年 米子市美術館蔵